
大学向けオリエンテーション

「IT産業」と「企業が求めるIT人材」

一般社団法人
電子情報技術産業協会
(JEITA)

JEITA講座運営WG

※本資料は、大学でのJEITA講座の講義に際し、より“IT産業”を理解してもらうことを目的に、大学でのオリエンテーション向けに作成した資料です。
本資料の使用に際しては、JEITA講座事務局(itt3@jeita.or.jp)までご連絡下さい。

目次

- 1. JEITAとは**
- 2. 最先端のITが拓く “未来社会”**
- 3. IT産業とは**
- 4. IT人材とは**
- 5. IT人材の育成に向けた取り組み**

「JEITA」とは

“JEITA”ってなに？

- JEITA（ジェイタ）：
一般社団法人 電子情報技術産業協会
(Japan Electronics and Information Technology
Industries Association)
- 我が国最大級のIT・エレクトロニクス産業を代表する業界団体です。

「業界団体」について

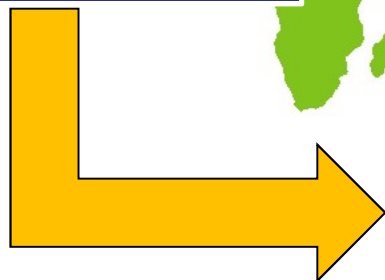
グローバルなビジネス展開⇒海外との連携



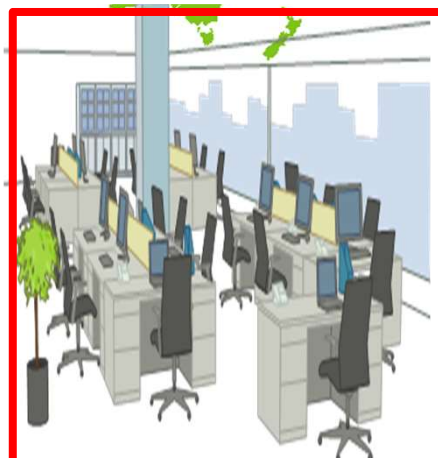
企業



政府



環境・安全・標準化・通商
問題等産業界共通課題の抽出
と解決のための活動



業界団体

ビジネスの展開において、
障壁となる国内外のルール
の改正(規制緩和)等を提言



経団連、電子情報業界、自動車工業会、銀行協会、...

「JEITA」の概要

- ◆ JEITAは国内外の産業規模に約39兆円を持つIT・エレクトロニクス産業を担うわが国最大級の業界団体
- ◆ 課題解決型の業界団体として業界の垣根を超えた連携・共創を推進。
- ◆ 会員数は約390社。会員には、日立製作所、富士通、NEC、東芝、三菱電機、沖電気（OKI）、横河電機、日本ユニシス、日本IBM、ソニー、パナソニック等の日本を代表する企業、ベンチャー企業、業界の垣根を越えて、トヨタ自動車、ソフトバンク、セコム、戸田建設、損保ジャパン日本興亜なども入会

製品分野

◆ インダストリアル機器

メインフレーム、サーバ、情報端末、ソフト、ソリューション、クラウド、放送、無線通信、医用電子、電子計測、ITS

◆ コンシューマ機器

テレビ、PC、タブレット、受信システム、BD、DVD
デジタルビデオカメラ、オーディオ、カーナビ

◆ 電子部品・電子材料

コンデンサ、抵抗器、インダクタ、スイッチ、コネクタ
センサ、アクチュエータ、電源、電子材料

◆ 電子デバイス

半導体デバイス、EDAツール、ディスプレイデバイス

対応課題

◆ 環境

◆ 国際対応

◆ 知的財産・標準化

◆ 政策提言

◆ 調査・統計

◆ 人材育成

◆ セミナー

展示会

CEATEC JAPAN

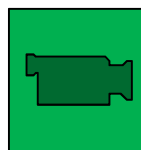
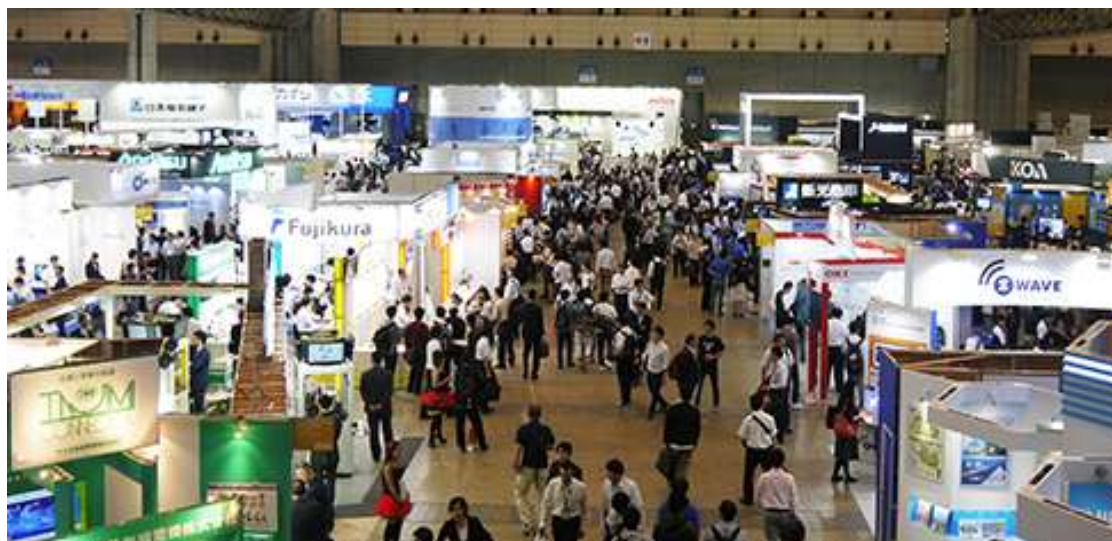
わが国最大級のIT・エレクトロニクス
総合展示会



CPS/IoTの総合展示会「CEATEC JAPAN」

2018/10/16～19に幕張メッセで我が国最大のCPS/IoTの総合展示会「**CEATEC JAPAN 2018**」が開催されました。

皆さんは見に行きましたか？



<https://www.youtube.com/watch?v=qz25K59hLWg&feature=youtu.be>

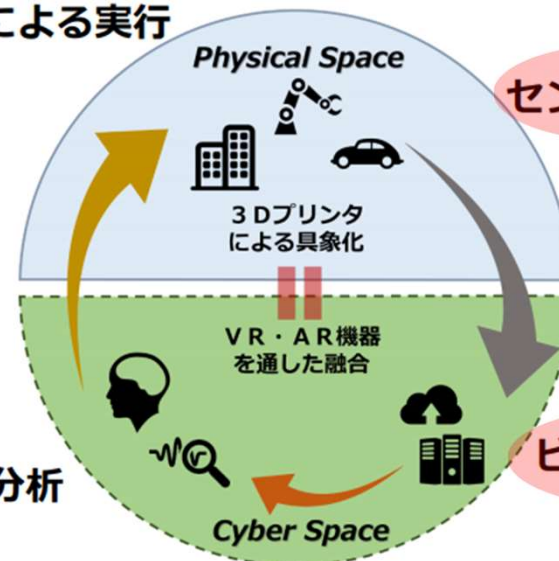
※「JEITA」は、「CEATEC JAPAN」の主催団体の一つです！

「JEITA」の概要

■ IT・エレクトロニクス産業の役割とは

ICTの急速な進化を背景とした、CPS（サイバー空間とフィジカル空間の融合）による新たな価値の創造。

機器、ロボットによる実行



センサ、機器によるデータ収集

AI等による分析

ビッグデータ化

※ CPS：サイバー・フィジカルシステム

※ VR (Virtual Reality)：仮想現実
AR (Augmented Reality)：拡張現実

IT・エレクトロニクス産業は、社会に新たな価値を創造するうえで必要不可欠となるテクノロジー・製品の開発・生産を担っています

そして、あらゆる産業との“つなぎ役・支え役”となる

経団連資料「Society5.0とIoT等への取組み」より引用

目次

1. JEITAとは

2. 最先端のITが拓く “未来社会”

3. IT産業とは

4. IT人材とは

5. IT人材の育成に向けた取り組み

最先端のＩＴが拓く“未来社会”

AIやロボットによるサービスが広がった未来で、私たちの社会や暮らしはどのように変化するのでしょうか？



➤ 長寿と健康



➤ 楽々ショッピング



➤ コミュニケーション
を豊かに



➤ 食を豊かに



➤ 軽やかな移動

A vibrant, stylized illustration of a city skyline. The foreground is filled with a variety of buildings, including tall skyscrapers with grid-like window patterns, modern glass-fronted structures, and smaller, more traditional-looking buildings. Green trees and parks are interspersed among the buildings, adding a touch of nature to the urban environment. In the background, a body of water stretches across the horizon, with a distant city skyline visible on the right side. The sky is a clear, bright blue. The overall style is that of a colorful, hand-drawn or computer-generated graphic.

An illustration of a woman in a blue suit and a man in a brown coat with a suitcase walking towards a modern building. The woman is holding a black folder and looking surprised. The man is looking back at her. The background shows a stylized blue and white building with a green lawn and trees.

© Copyright 2018 JEITA (Japan Electronics and Information Technology Industries Association)

最先端のＩＴが拓く“未来社会”～家庭では

2024年のホームイメージ



◆ 在宅における
教育の支援

◆ 子育て
◆ 家事支援



◆ テレワーク



◆ ディスプレイの進化



◆ 高齢者見守り
◆ 家族の健康管理



◆ 在宅医療
◆ 介護



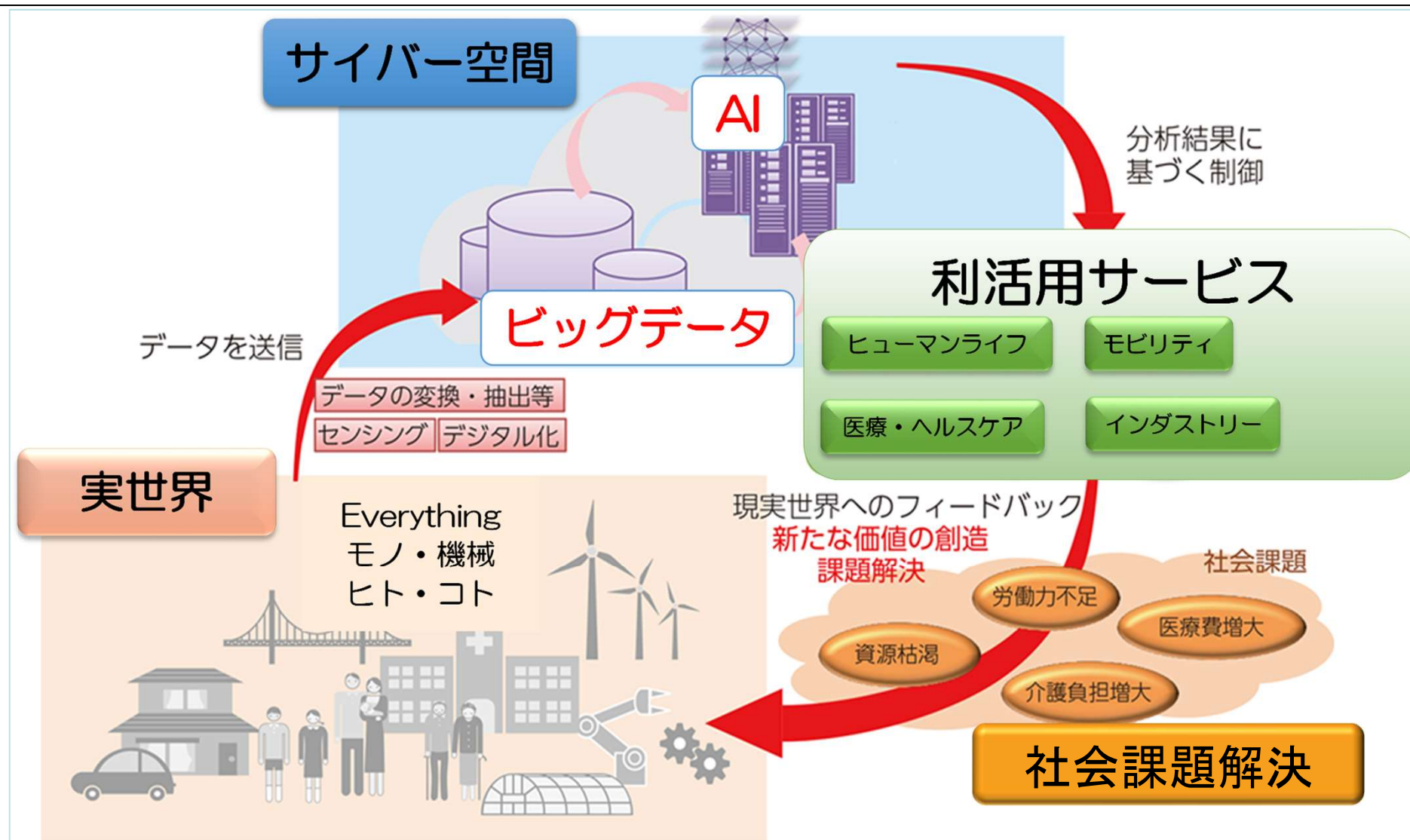
出典：「JEITA消費エレクトロニクス業界が描く10年後の社会」

「情報社会」から「CPS/IoT社会」へ



このような近未来の社会を実現するものが、「IoT・ビッグデータ・人工知能 (AI)」などの先端IT技術です。今、世界は急激なスピードでこれら先端IT技術を駆使した「CPS/IoT社会」に変わっていきようとしています。

「IoT・ビッグデータ・人工知能(AI)」で社会課題を解決する



出典: 2017-2017 JEITA 調査統計ガイドブックExecutive Summary

「2026年までの電子部品技術ロードマップ

～IoTとAIによるスマート化する産業、生活と世界をリードする電子部品の動向～」

人工知能(AI)の歴史

人工知能(AI)の研究は1950年代から続いています、その過程ではブームと冬の時代が交互に訪れてきました。現在は、ディープラーニング技術の進展や、IoT・ビッグデータ解析が実用化されていく状況と組み合わせ、飛躍的な発展が期待されています。

	人工知能の置かれた状況	主な技術等	人工知能に関する出来事
1950年代			チューリングテストの提唱 (1950年)
1960年代	第一次人工知能ブーム (探索と推論)	・探索、推論 ・自然言語処理 ・ニューラルネットワーク ・遺伝的アルゴリズム	ダートマス会議にて「人工知能」という言葉が登場 (1956年) ニューラルネットワークのパーセプトロン開発 (1958年) 人工対話システムELIZA開発 (1964年)
1970年代	冬の時代	・エキスパートシステム	初のエキスパートシステムMYCIN開発 (1972年) MYCINの知識表現と推論を一般化したEMYCIN開発 (1979年)
1980年代	第二次人工知能ブーム (知識表現)	・知識ベース ・音声認識	第五世代コンピュータプロジェクト (1982～92年) 知識記述のサイクプロジェクト開始 (1984年) 誤差逆伝播法の発表 (1986年)
1990年代	冬の時代	・データマイニング ・オントロジー	
2000年代	第三次人工知能ブーム (機械学習)	・統計的自然言語処理 ・ディープラーニング	ディープラーニングの提唱 (2006年)
2010年代			ディープラーニング技術を画像認識コンテストに適用 (2012年)

(出典) 総務省「ICTの進化が雇用と働き方に及ぼす影響に関する調査研究」(平成28年)

人工知能(AI)の発展と利活用の進化

AIが認識できる範囲が人々の活動領域に広く行き渡ると、AIは人間が話す自然言語までも扱うことができるようになります。最終的には言語を通じた知識の獲得や状況対応が可能になり、例えば、AIが秘書などの業務を担うことも可能になります。

年	技術発展	向上する技術	社会への影響
2014	画像認識	認識精度の向上	・広告 ・画像からの診断
2015	マルチモーダルな抽象化	感情理解 行動予測 環境認識	・ビッグデータ ・防犯・監視
	行動とプランニング	自律的な行動計画	・自動運転 ・物流(ラストワンマイル) ・ロボット
	行動に基づく抽象化	環境認識能力の大幅向上	・社会への進出 ・家事・介護 ・感情労働の代替
	言語との紐づけ	言語理解	・翻訳 ・海外向けEC
2020	さらなる知識獲得	大規模知識理解	・教育 ・秘書 ・ホワイトカラー支援

(出典) 総務省「ICTの進化が雇用と働き方に及ぼす影響に関する調査研究」(平成28年)

「人工知能(AI)とIoTが描く“未来の姿”」



目次

1. JEITAとは
2. 最先端のITが拓く “未来社会”
- 3. IT産業とは**
4. IT人材とは
5. IT人材の育成に向けた取り組み

「IT産業」の変遷

1970～

- メインフレームの製造・販売主体のハードウェア事業
- 受託計算やデータ入力等の情報サービス事業

1980～

- クライアント・サーバ／パソコン等の多彩な機種
- パッケージソフトウェアの開発・販売
- 企業の業務システム受託によるシステムインテグレーション(SI)事業

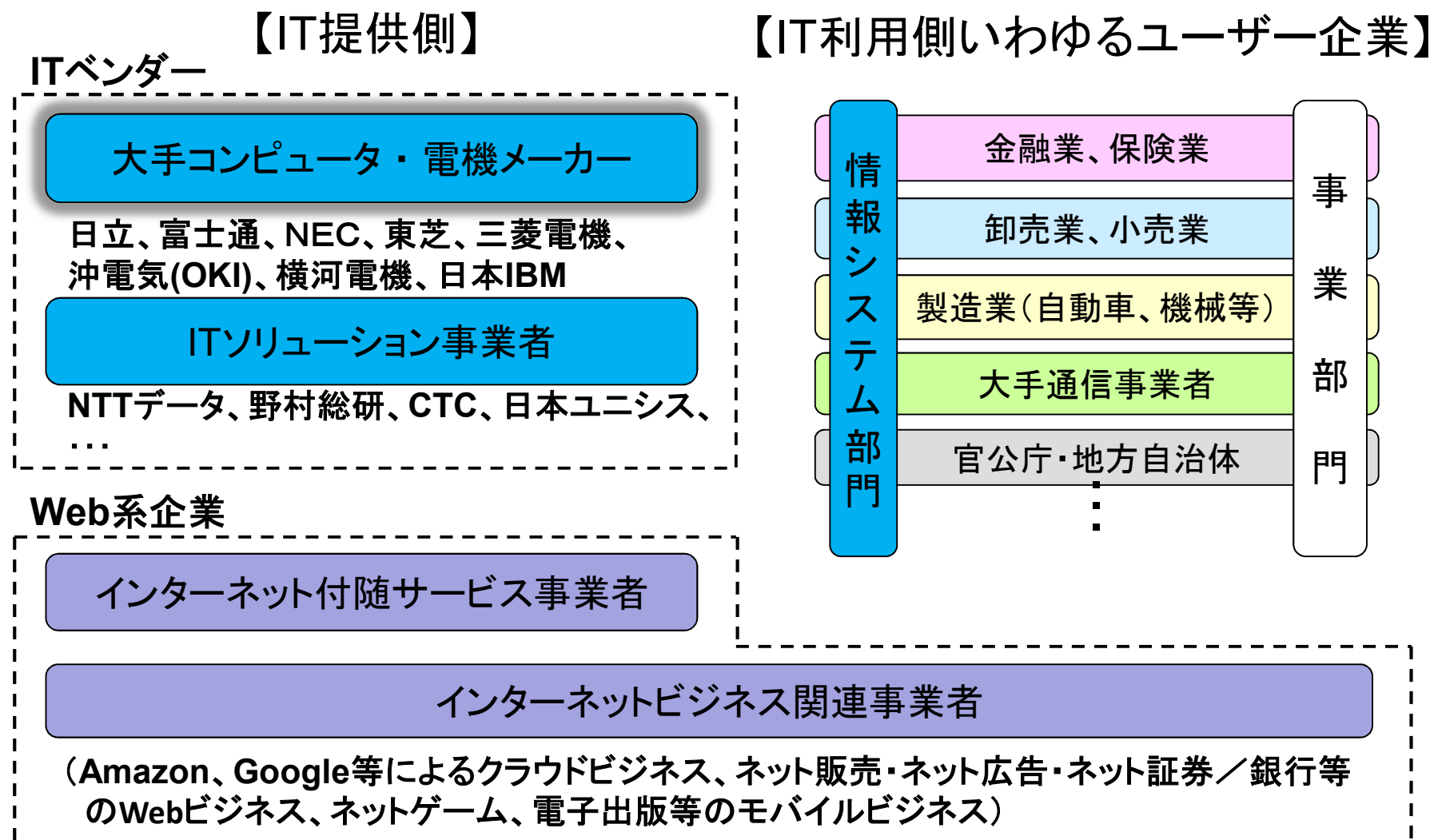
1995～

- インターネットやWebの登場によるWebサービス事業の台頭
- Electronic Commerce等の進展によるIT産業の広がり

2010～

- クラウド、モバイル、SNS、ビッグデータ、AIの時代
- IoTなどにより、IT産業は社会インフラを支える事業形態に発展
- IT利活用が遅れていた農業・観光・ヘルスケア等の分野とも連携が加速

「IT関連産業」の構造



(注1) ITソリューション: システム受託開発(SI)、ソフトウェア開発、システムの運用保守・その他サービス

(注2) インターネット付随サービス: ポータルサイト・サーバ運営、サービス・コンテンツ作成、インターネット利用サポート

社会・産業を繋ぐ、支える、電子情報産業

全産業就業者数 **6,530万人**



電子情報産業の就業者数・・・**240万人**

- ハードウェア(電子工業)・・・83万人
 - 情報通信機械・・・24万人
 - 電子部品デバイス・・・59万人
- ソリューションサービス・・・157万人

約5,500万人

CPS/IoTで繋がる産業

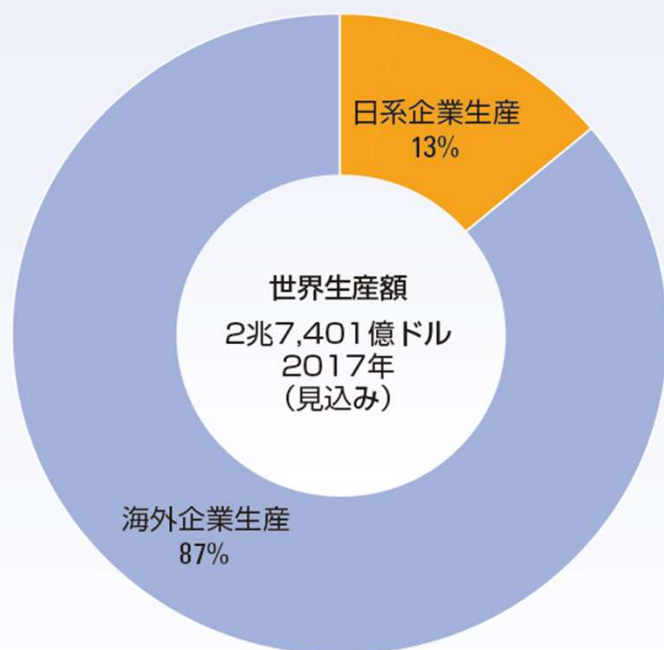


我が国の製造業で主要な位置を占める電子情報産業

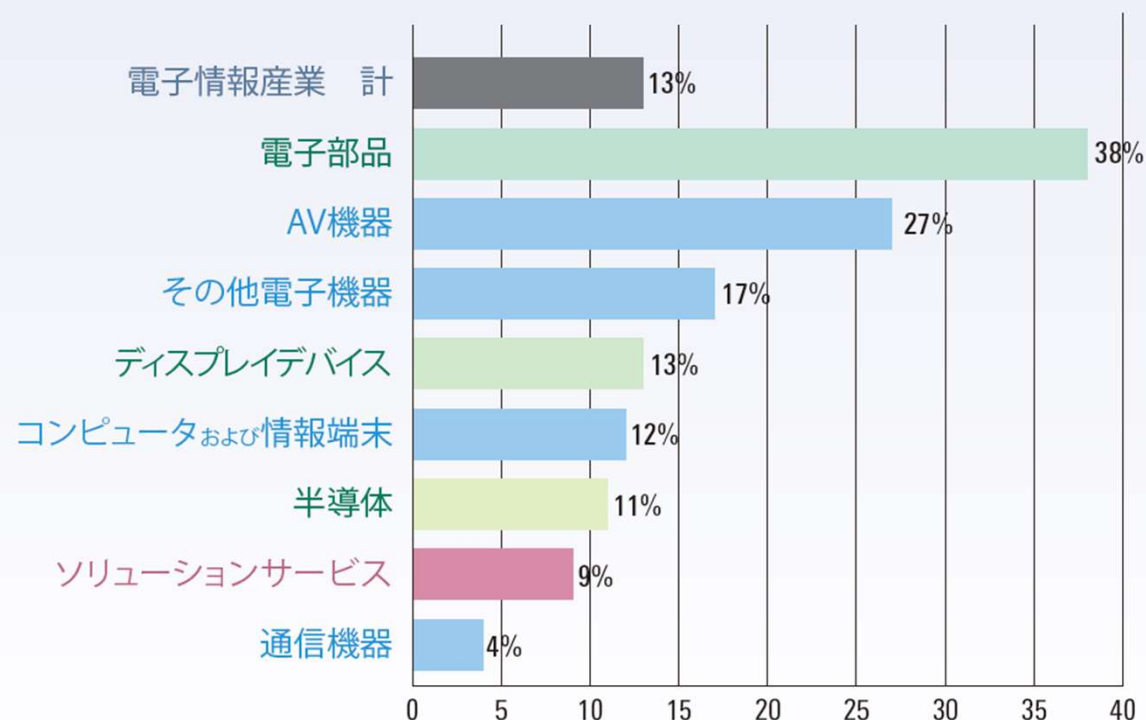
■ 日系企業の世界生産状況

日系企業の世界生産状況を見ると、2017年（見込み）での日系企業のシェアは世界全体で13%となっています。また、分野別世界シェアでは、電子部品で38%の高いシェアを維持しています。しかしながら、近年、電子機器部門を中心に海外企業との競争が激化しています。

世界生産額と日系企業シェア



分野別日系企業のシェア（2017年見込み）



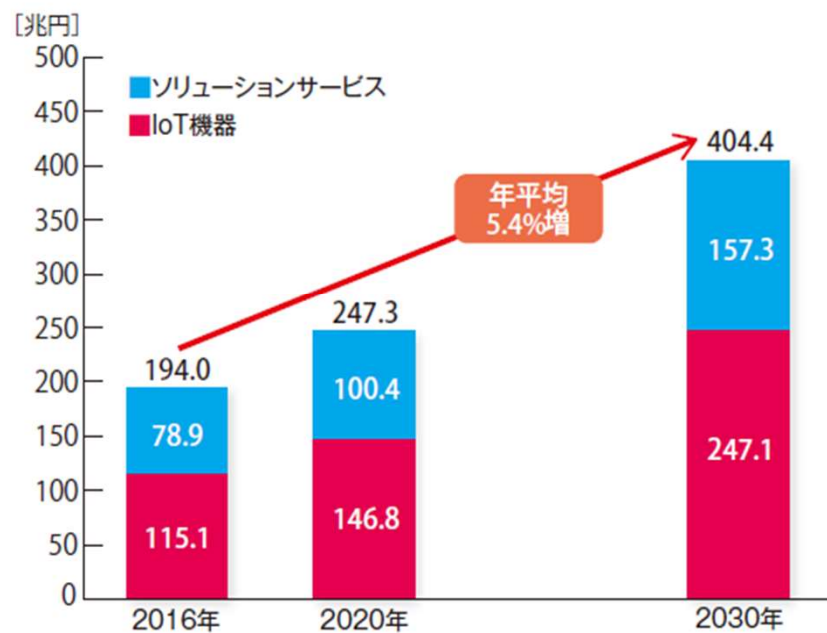
需要が急速に高まる「CPS/IoT」の利活用分野別世界市場

背景

CPS/IoTの活用は、経済・社会構造の変化に伴い、その分野に対する需要が急速に高まる一方で、少子高齢化、就労人口減少、インフラ設備老朽化、環境・エネルギー問題等様々な社会課題に直面する分野が多く存在しています。今回は、

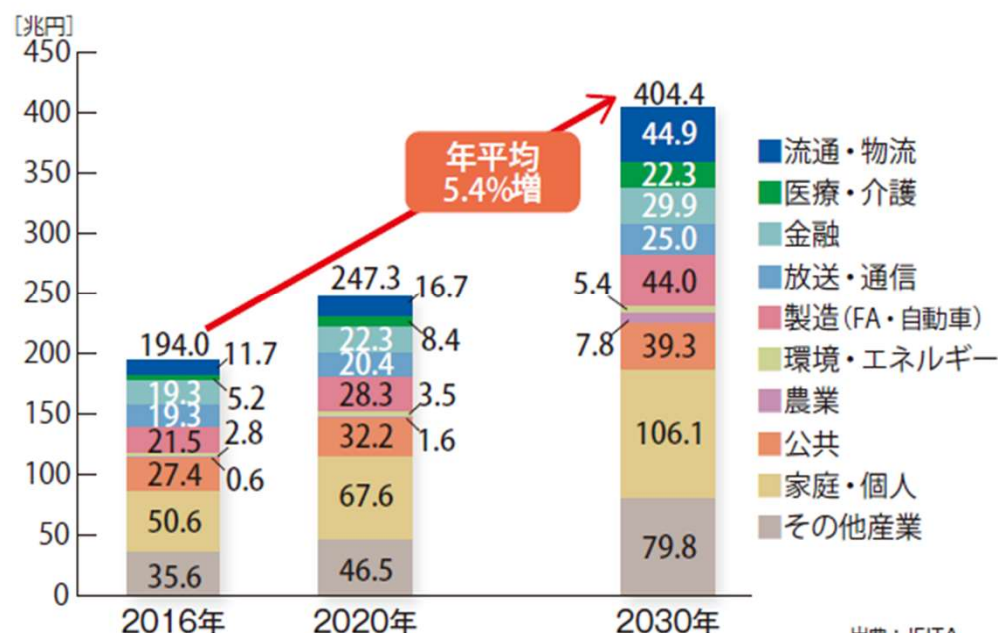
CPS/IoTの世界市場を、供給者であるメーカ側の視点に加えて、需要者側の利活用10分野の視点からも取り上げ、定量的に予測しました。

■ CPS/IoT市場の世界需要額見通し



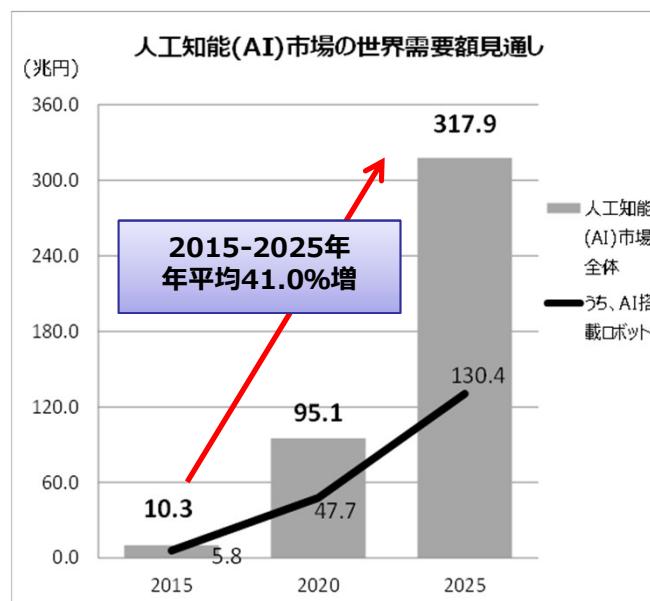
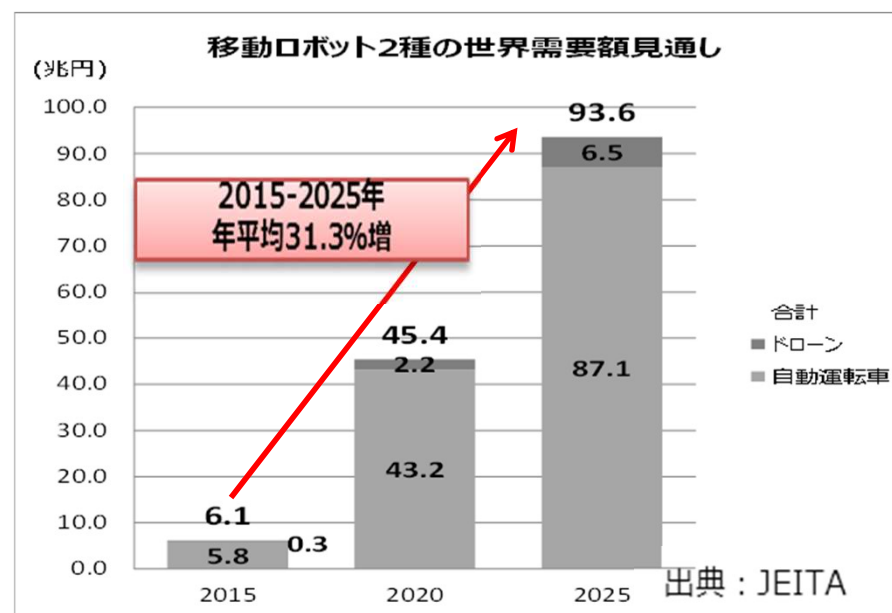
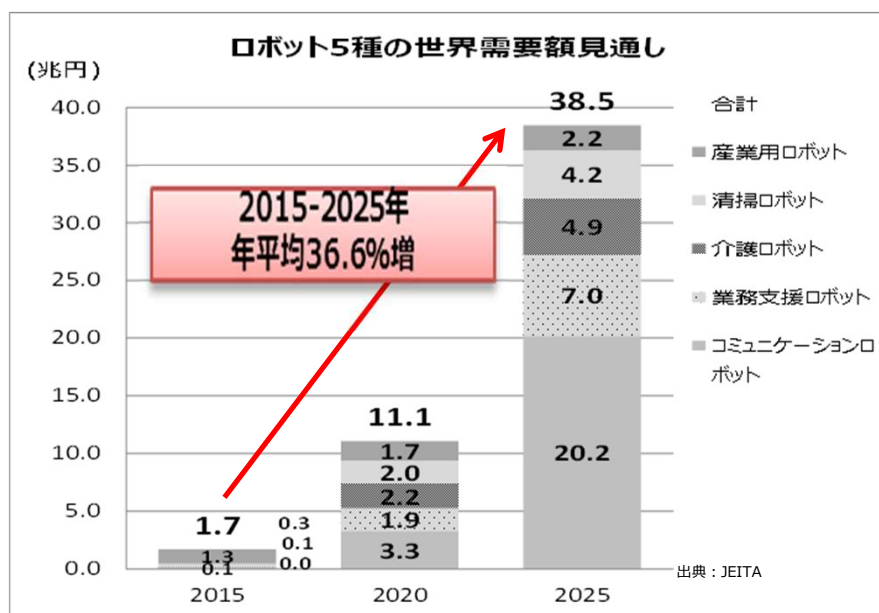
出典：JEITA

■ CPS/IoT市場の利活用分野別の需要額見通し(世界市場)



出典：JEITA

今後の注目分野 ～ロボット・移動ロボット、人工知能(AI)～

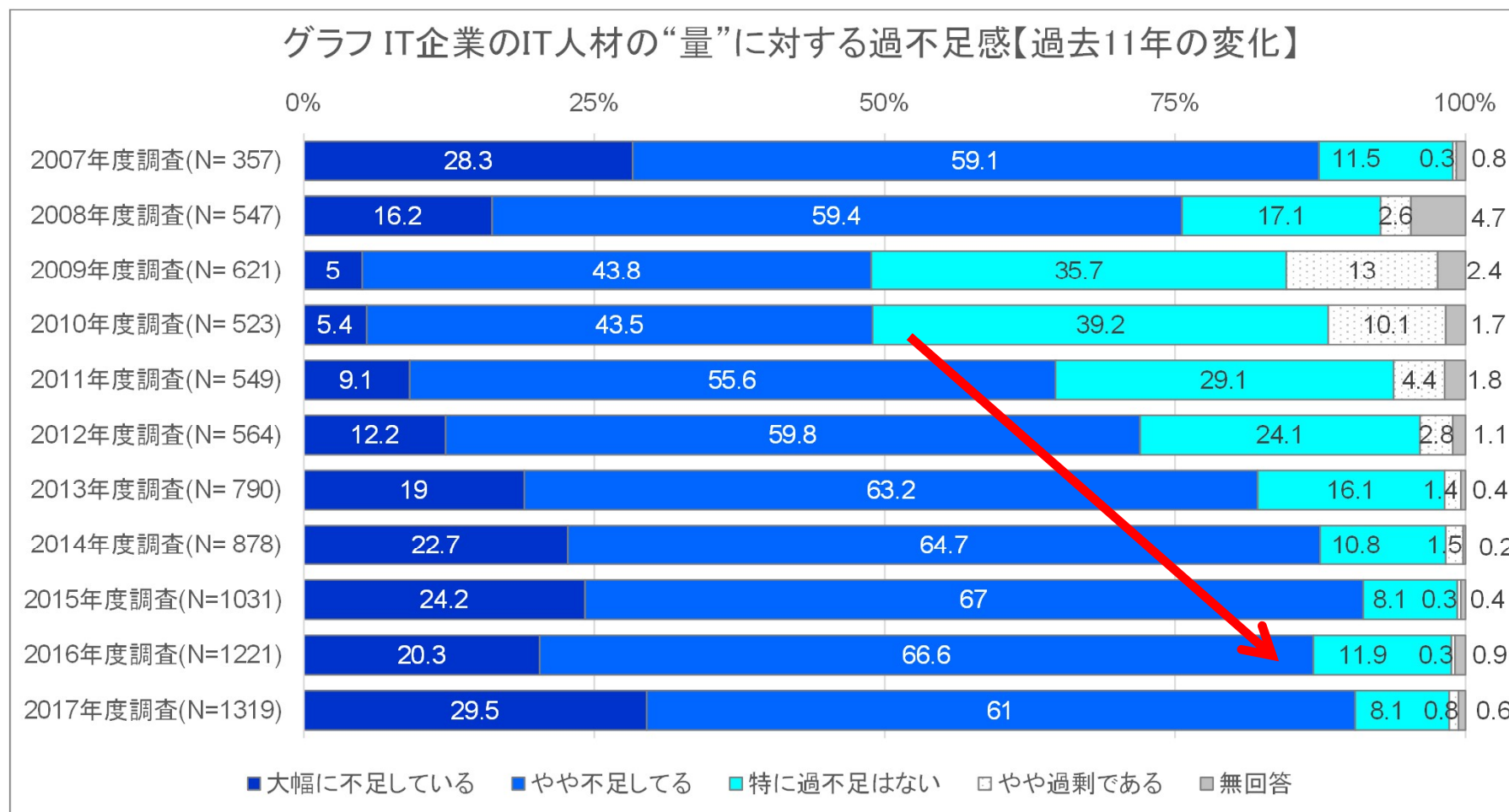


目次

1. JEITAとは
2. 最先端のITが拓く “未来社会”
3. IT産業とは
- 4. IT人材とは**
5. IT人材の育成に向けた取り組み

不足するIT人材

■IT人材の「量」に対する過不足感の推移



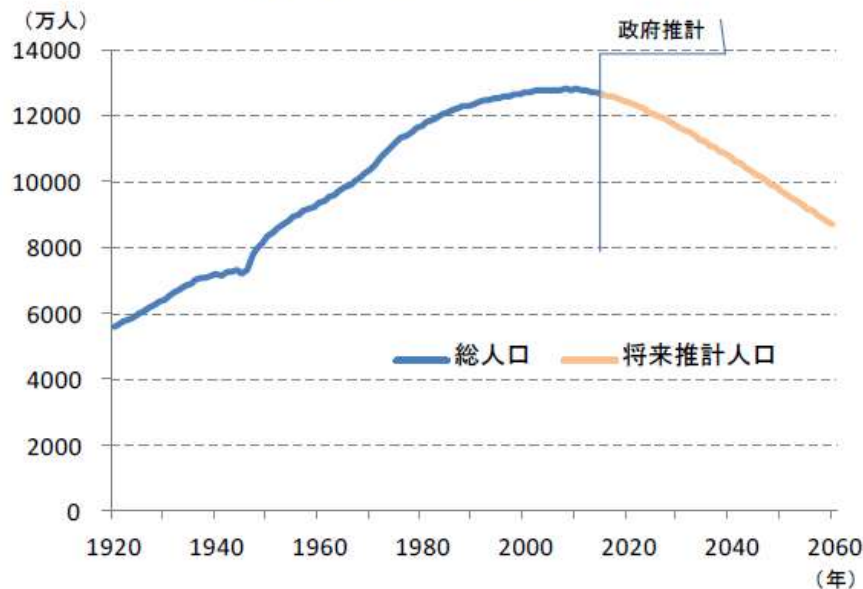
出典:IPA「IT人材白書2017、2018」(IT企業向け調査結果から)

不足するIT人材

■IT人材の不足状況に関する予測

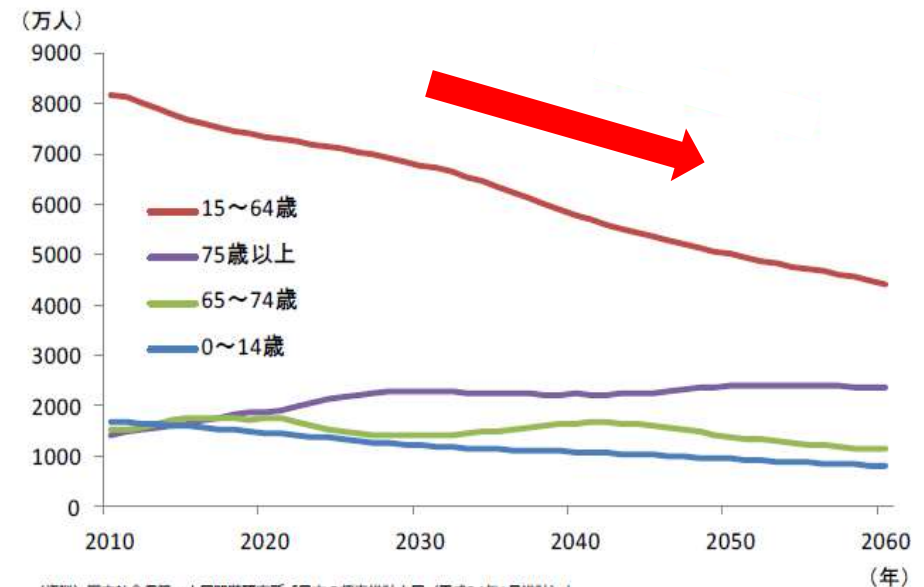
- 2015年の人材不足規模: 約**17万人**
 - 2030年の人材不足規模: 約**59万人**(中位予測)
- ⇒ **IT人材不足は、今後ますます深刻化**

図3. 我が国の総人口



(資料) 総務省「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」

図4. 生産年齢人口の減少



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」

出典: IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果
経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課

不足するIT人材

■今後IT人材の必要性が見込まれる分野

- 今後特に必要性が高まる分野：
「ビッグデータ」、「IoT」、「AI」、「ロボット」
- 今後必要性が見込まれる分野：
「クラウドコンピューティング」、「情報セキュリティ」、
「デジタルビジネス」

出典：IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果
経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課

不足するIT人材

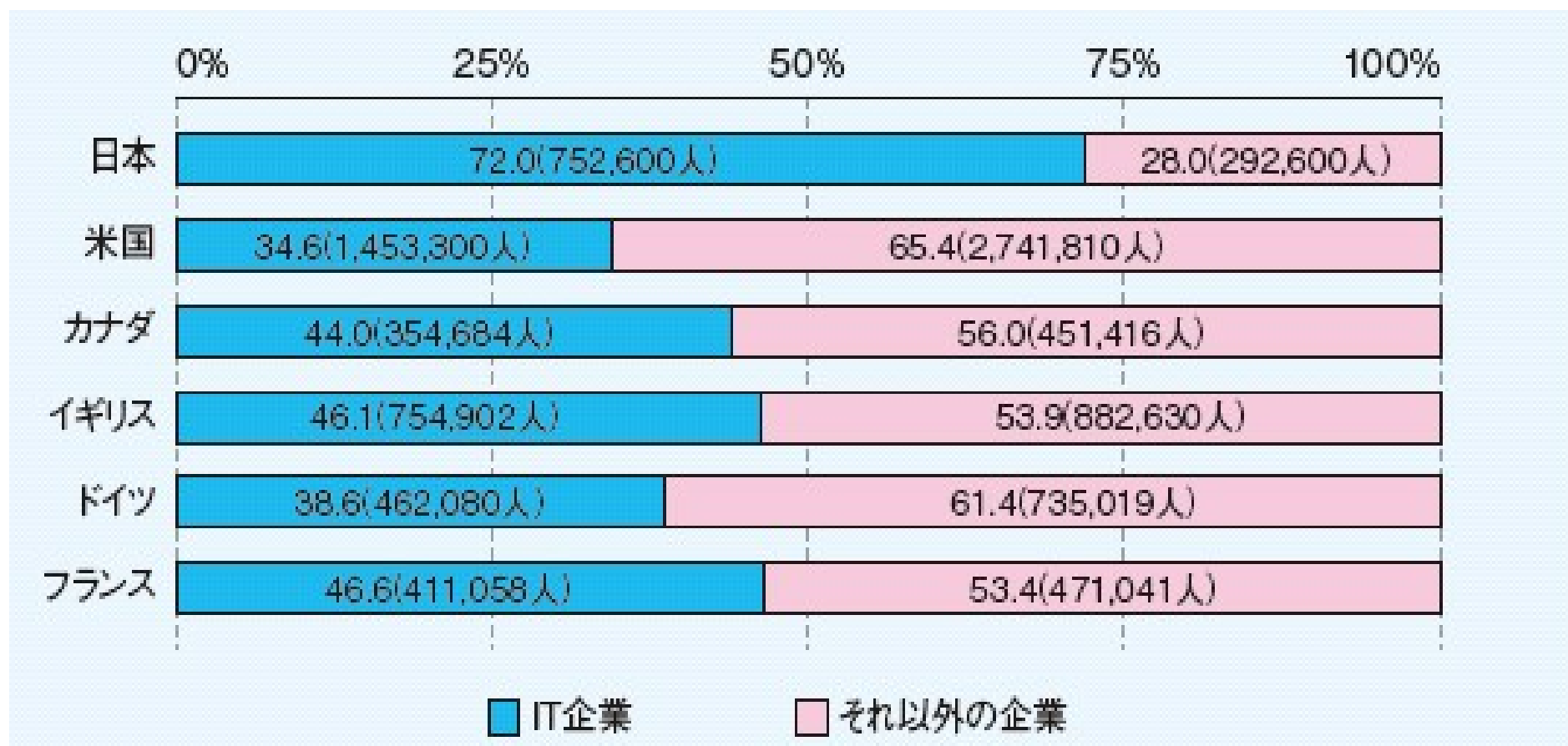
■階層別に今後最も不足する人材(ITベンダー)

	若手人材	中堅人材	幹部・指導層
1位	開発系人材(アプリケーション) (35.2%)	プロジェクトマネージャー (37.6%)	新事業開発・事業創造人材 (40.8%)
2位	設計系人材 (19.2%)	設計系人材 (22.2%)	プロジェクトマネージャー (28.5%)
3位	開発系人材(インフラ関連) (18.7%)	新事業開発・事業創造人材 (21.2%)	営業系人材 (22.8%)
4位	データ解析系人材 (16.7%)	コンサルタント (20.1%)	コンサルタント (22.5%)
5位	情報セキュリティ人材 (15.2%)	営業系人材 (18.4%)	データ解析系人材 (15.8%)
6位	新事業開発・事業創造人材 (14.5%)	開発系人材(アプリケーション) (16.9%)	情報セキュリティ人材 (8.7%)
7位	保守・運用系人材 (13.3%)	データ解析系人材 (13.8%)	設計系人材 (8.1%)

出典:IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果
経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課

日米欧のIT人材の所属企業

■ IT企業とそれ以外の企業（ユーザ企業）に所属するIT人材の割合

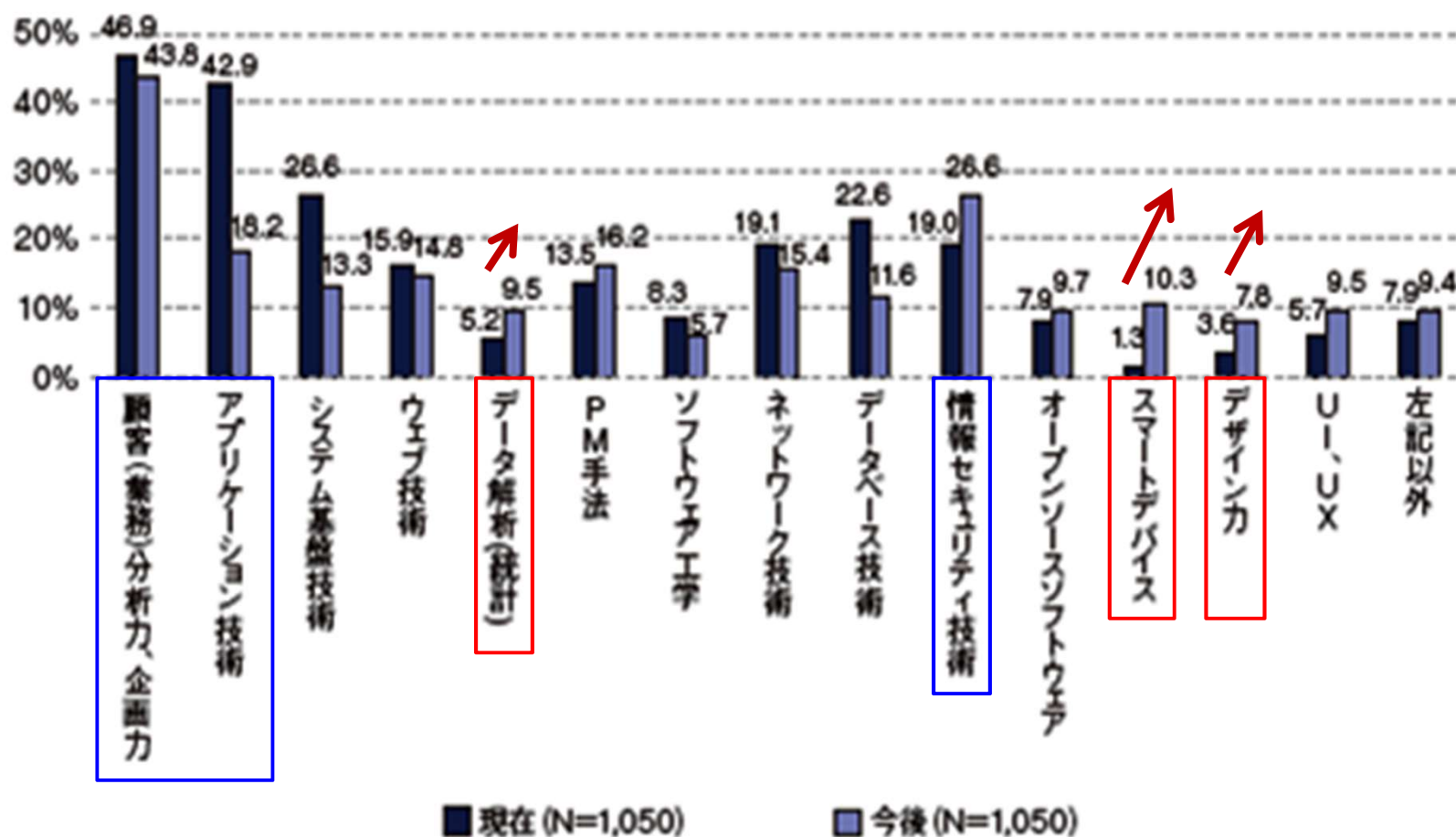


出典: IPA「IT人材白書2017」

企業が求めるIT人材

■ IT人材に必要とされる「技術力」

図表4-4-17 IT企業IT技術者が現状必要／今後必要になると考える技術力・知識・スキル⁷

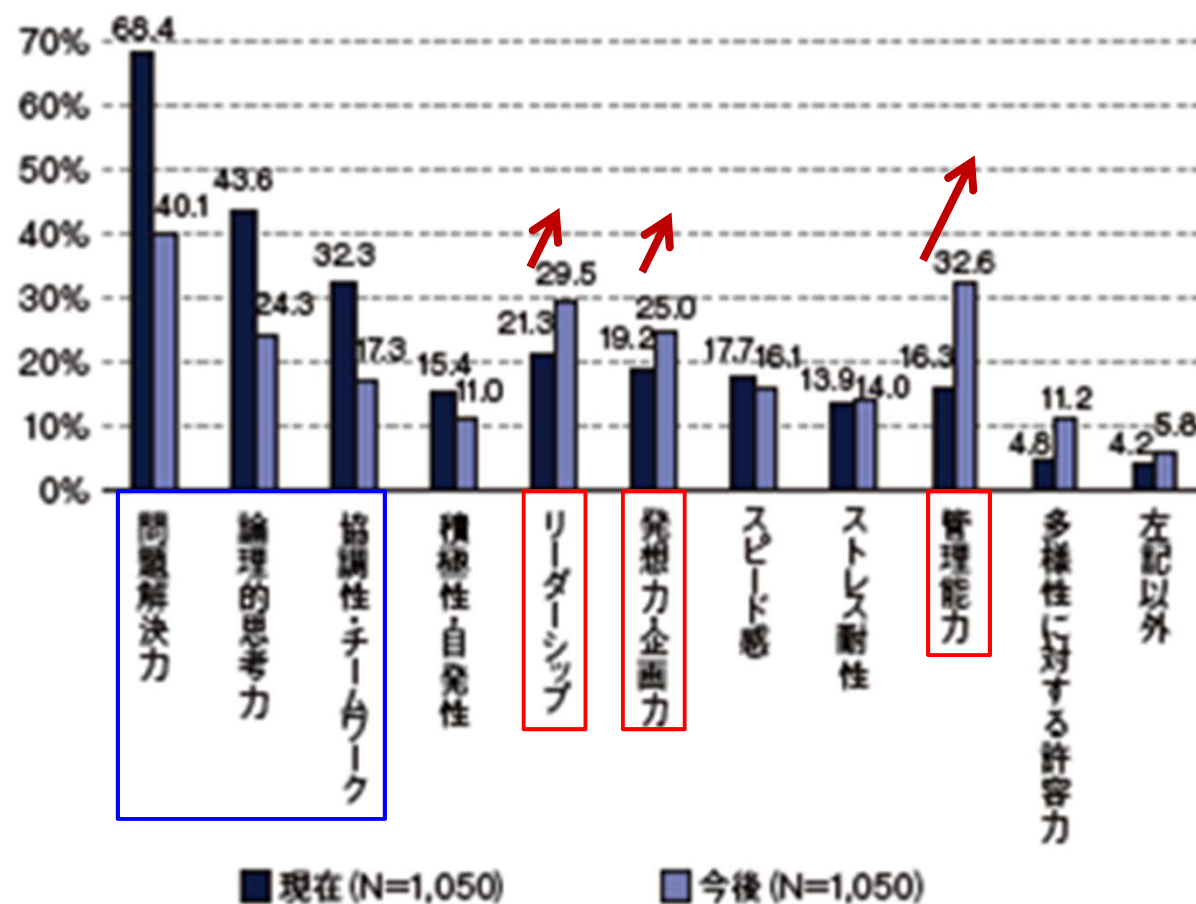


出典:IPA「IT人材白書2016」

企業が求めるIT人材

■ IT技術者に必要とされる「能力」

図表4-4-18 IT企業IT技術者が現状必要／今後必要になると考える能力*



出典:IPA「IT人材白書2016」

企業が求めるIT人材

■ 社会人基礎力について 「社会人基礎力」とは



- 平成18年2月、経済産業省では産学の有識者による委員会(座長:諏訪康雄法政大学大学院教授)にて「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を下記3つの能力(12の能力要素)から成る「社会人基礎力」として定義づけ。

< 3つの能力 / 12の能力要素 >

前に踏み出す力 (アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性
物事に進んで取り組む力
働きかけ力
他人に働きかけ巻き込む力
実行力
目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力 (シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力
現状を分析し目的や課題を明らかにする力
計画力
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
創造力
新しい価値を生み出す力

チームで働く力 (チームワーク)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～

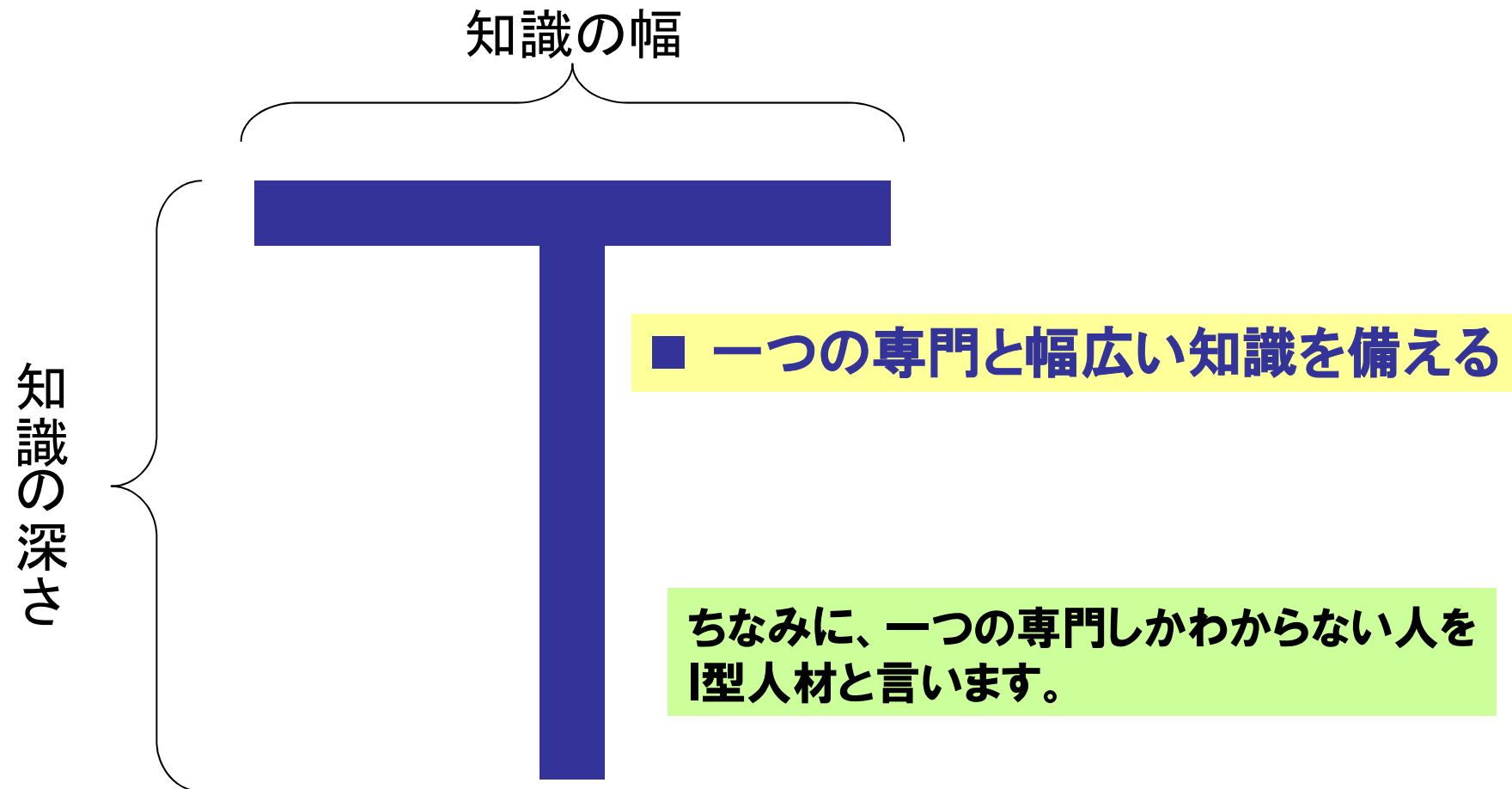


発信力
自分の意見をわかりやすく伝える力
傾聴力
相手の意見を丁寧に聴く力
柔軟性
意見の違いや立場の違いを理解する力
状況把握力
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
規律性
社会のルールや人との約束を守る力
ストレスコントロール力
ストレスの発生源に対応する力

出典: 経済産業省ホームページ

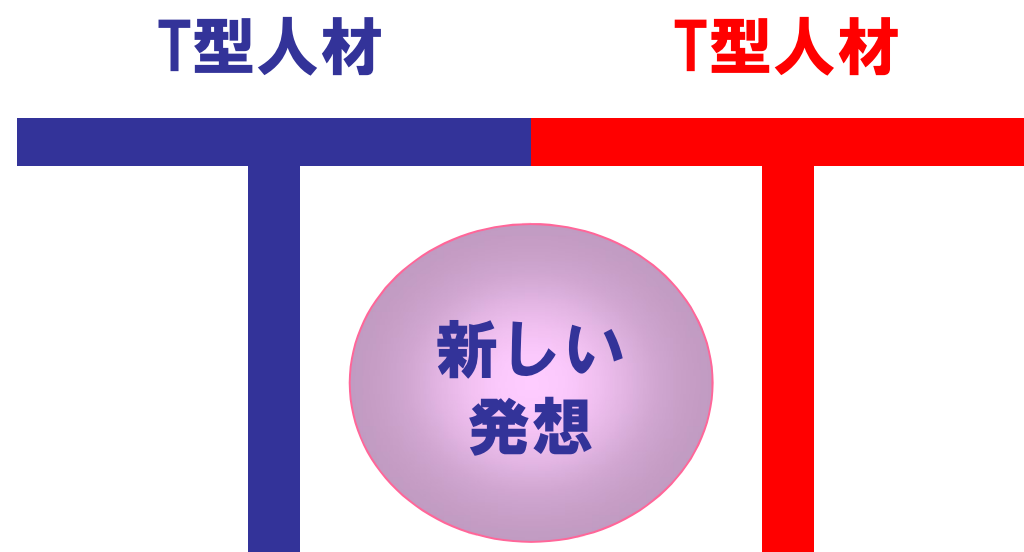
企業が求めるIT人材

■ 目指すべき人材のイメージ ～T型人材のすすめ



企業が求めるIT人材

■ 目指すべき人材のイメージ ～企業が求める多様性

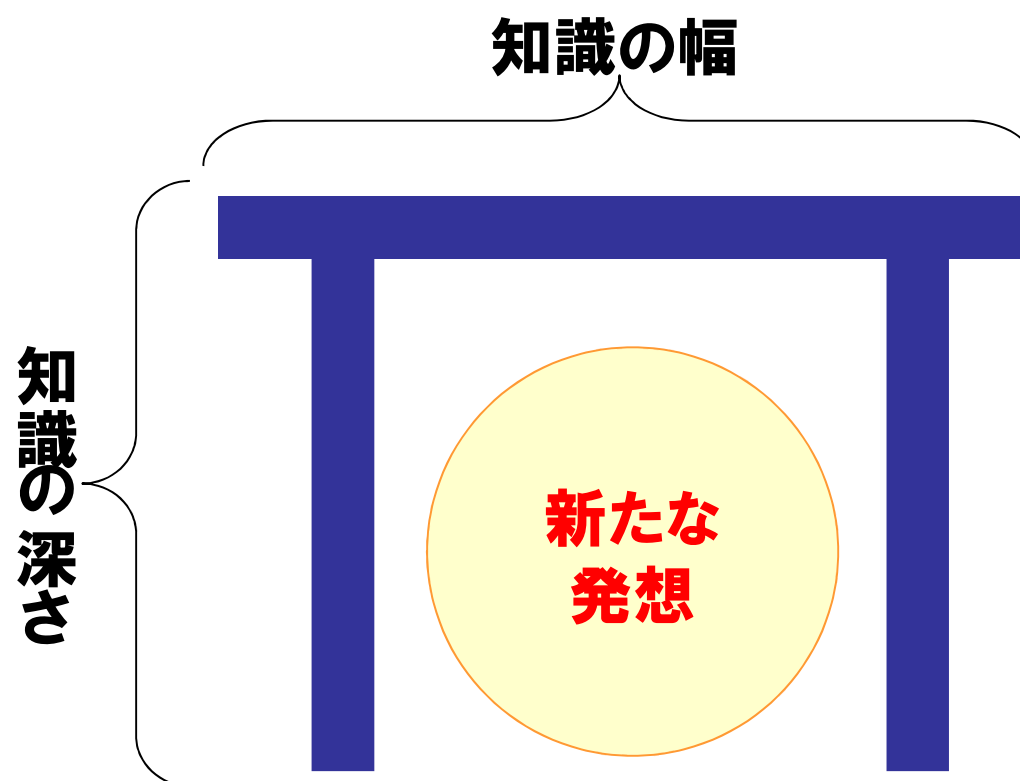


- 多様な人間が協働することで新しい発想を産み出す。
- I型人材の集まりでは認識の共有ができないため、新しい発想が産まれない。

企業が求めるIT人材

■ 目指すべき人材のイメージ ～さらに上を目指そう

Π (パイ) 型人材のすすめ



自身の専門の幅の中で新たな発想を
産み出すことができる

ソフトウェアに携わる人と仕事

■「ソフトウェア技術者へのインタビュー」を観る

JEITA>情報・産業社会システム部会「ソフトウェアは未来をつくる」の「ソフトウェアに携わる人」

<http://home.jeita.or.jp/is/highschool/work/>



ビデオをご覧下さい！

(参考)「IT・エレクトロニクス企業で活躍する先輩」の講演を聞く

産学連携シンポジウム「ITエレクトロニクス企業で活躍する先輩からのメッセージ」

【毎年10－12月頃に実施】 <https://www.jeita.or.jp/jinzai/sympo.html>

CEATEC 業界研究セミナー「IT・エレクトロニクス業界の魅力と貢献」【毎年10月頃に実施】

<https://www.jeita.or.jp/jinzai/event.html>

スキル標準を参照、試験、資格にチャンレンジする

■ ITスキル標準 (IT Skill Standard)

個人のIT関連能力を職種や専門分野ごとに 明確化・体系化しIT人材に求められるスキルやキャリア(職業)を示した指標

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/itss1.html>

■ iコンピテンシ・ディクショナリ

企業においてITを活用するビジネスに求められる業務(タスク)と、それを支えるIT人材の能力や素養(スキル)を「タスクディクショナリ」、「スキルディクショナリ」として体系化

https://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/i_competency_dictionary/icd.html

■ 情報処理技術者試験

情報処理技術者としての「知識・技能」を認定している国家試験

https://www.jitec.ipa.go.jp/1_08gaiyou/_index_gaiyou.html

■ 情報処理学会の認定情報技術者

情報技術者を対象とした上級資格で、ITスキル標準、および情報技術者の資格制度に関する国際標準であるISO/IEC 24773に基づいた資格制度

https://www.ipsj.or.jp/copy_of_20150427_citp.html

■ 情報処理安全確保支援士

情報セキュリティの専門的な知識・技能を有する専門人材を登録・公表するもの

<http://www.ipa.go.jp/about/press/20160627.html>

「若手人材育成イベント」でチャレンジする

■セキュリティ・キャンプ事業 (IPA)

若年層の突出したIT人材の発掘・育成も目的に、22歳以下の学生を対象に産業界の第一線で活躍する技術者から高度なセキュリティ技術等を合宿形式で学ぶ研修会

<http://www.security-camp.org/about/index.html>

■SecHack365 (NICT)

25歳以下の若手を対象に、高度な技術力を持つセキュリティイノベーターを1年かけて育成するプログラム <https://sechack365.nict.go.jp/>

■未踏IT人材発掘・育成事業 (IPA)

ITを駆使してイノベーションを創出することのできる独創的なアイデアと技術を有するとともに、これらを活用する優れた能力を持つ、突出した若い人材を発掘・育成

https://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/portal_index.html

■ETロボコン (組込みシステム技術協会、SESSAME)

「組込みシステム」分野における技術教育をテーマに、決められた走行体で指定コースを自律走行する競技。同一のハードウェアにソフトウェアを搭載し競うコンテスト

<http://www.etrobo.jp/2017/>

■U-22プログラミング・コンテスト (IPA、IPSJほか)

優れた人材の発掘・育成を目的とした作品提出型のプログラミングコンテスト

<http://www.u22procon.com/>

未踏IT人材発掘・育成事業の卒業生

- ・ ITを駆使して社会にイノベーションを起こすトップ人材をターゲットに、「未踏事業」の実施により、ユニークで突き抜けた才能の発掘・育成・事業化支援を行ってきた。
- ・ これまでに約1,700名の人材を発掘し、ネットワーク化を図ってきたところ。
- ・ こうした人材と、既存の大企業・中小企業とのマッチングを図り、産業界にイノベーションを促進していくことが重要であり、連携強化を図っていく方針。

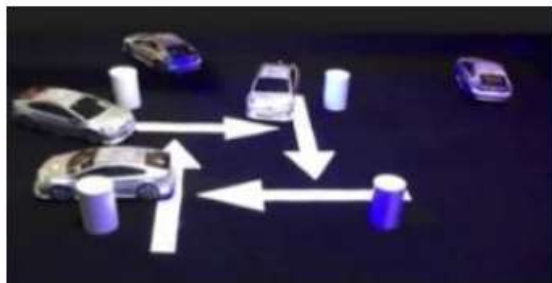


西川 徹氏

2005年度未踏採択
㈱プリファード
ネットワークス
代表取締役社長

ビッグデータをリアルタイムに処理
する世界最高水準の技術を開発

自動運転等の実現に向けた、人
工知能の研究開発に着手



落合 陽一氏

2009年度未踏採択
筑波大学学長補佐、准教授
ピクサーテクノロジーズ㈱
代表取締役社長

メディアアート作品の研究、制作に
より「現代の魔法使い」と呼ばれる



鈴木 健氏

2002年度未踏採択
スマートニュース㈱
代表取締役会長、
共同CEO

ニュースキュレーションアプリの開発



福島 良典氏

2012年度未踏採択
㈱Gunosy創業者
取締役 兼 LayerX
代表取締役

ニュースキュレーションアプリの開発



吉崎 航氏

2009年度未踏採択
アストラテック㈱
チーフロボットクリエイ
ター

人型ロボット用のOSとも言える
制御ソフトウェア
V-Sidoを開発

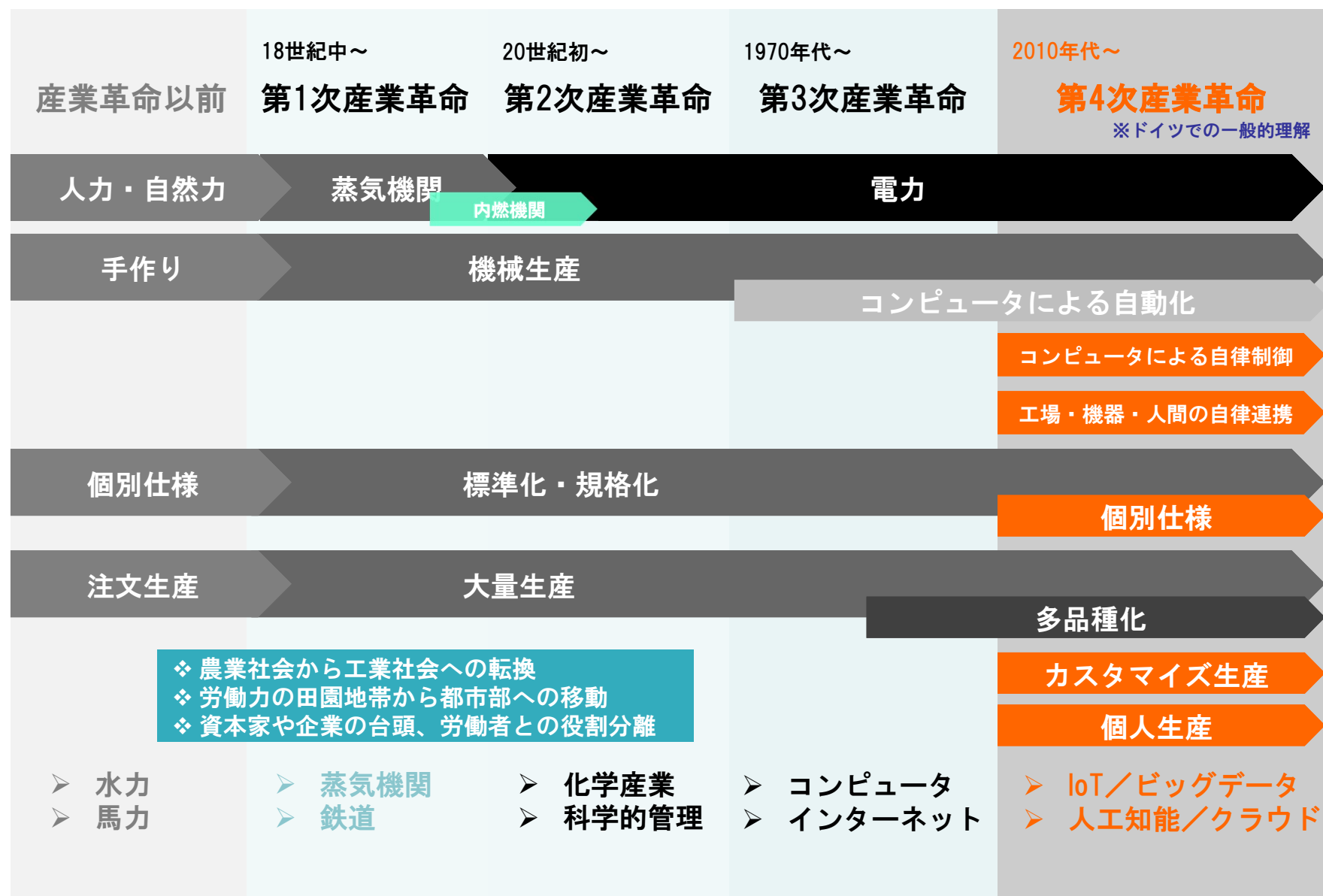


出典：経済産業省 商務情報政策局 説明資料(経歴はアップデート)

目次

1. JEITAとは
2. 最先端のITが拓く “未来社会”
3. IT産業とは
4. IT人材とは
- 5. IT人材の育成に向けた取り組み**

今、世界は「第4次産業革命」へ



日本は、「Society 5.0」社会の実現を目指す

- 日本は、第4次産業革命の世界的な潮流の中、「Society 5.0」社会の実現に向け、国をあげて推進しています。



出典：【経団連】「Society 5.0実現による日本再興」

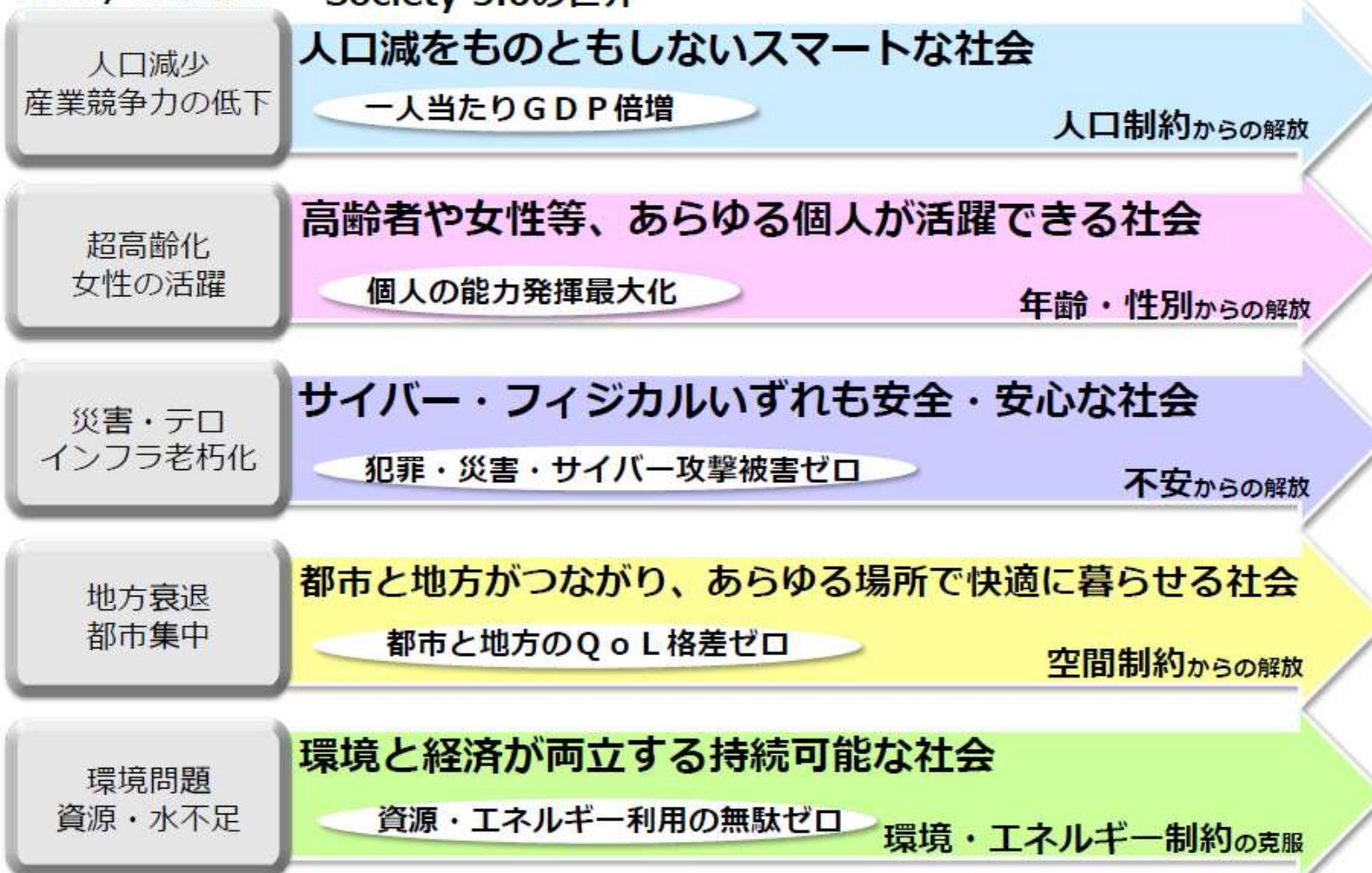
日本は、「Society5. 0」社会の実現を目指す

Society 5.0の世界 – 実現する社会のイメージ –

Keidanren
Policy & Action

Society 4.0の課題

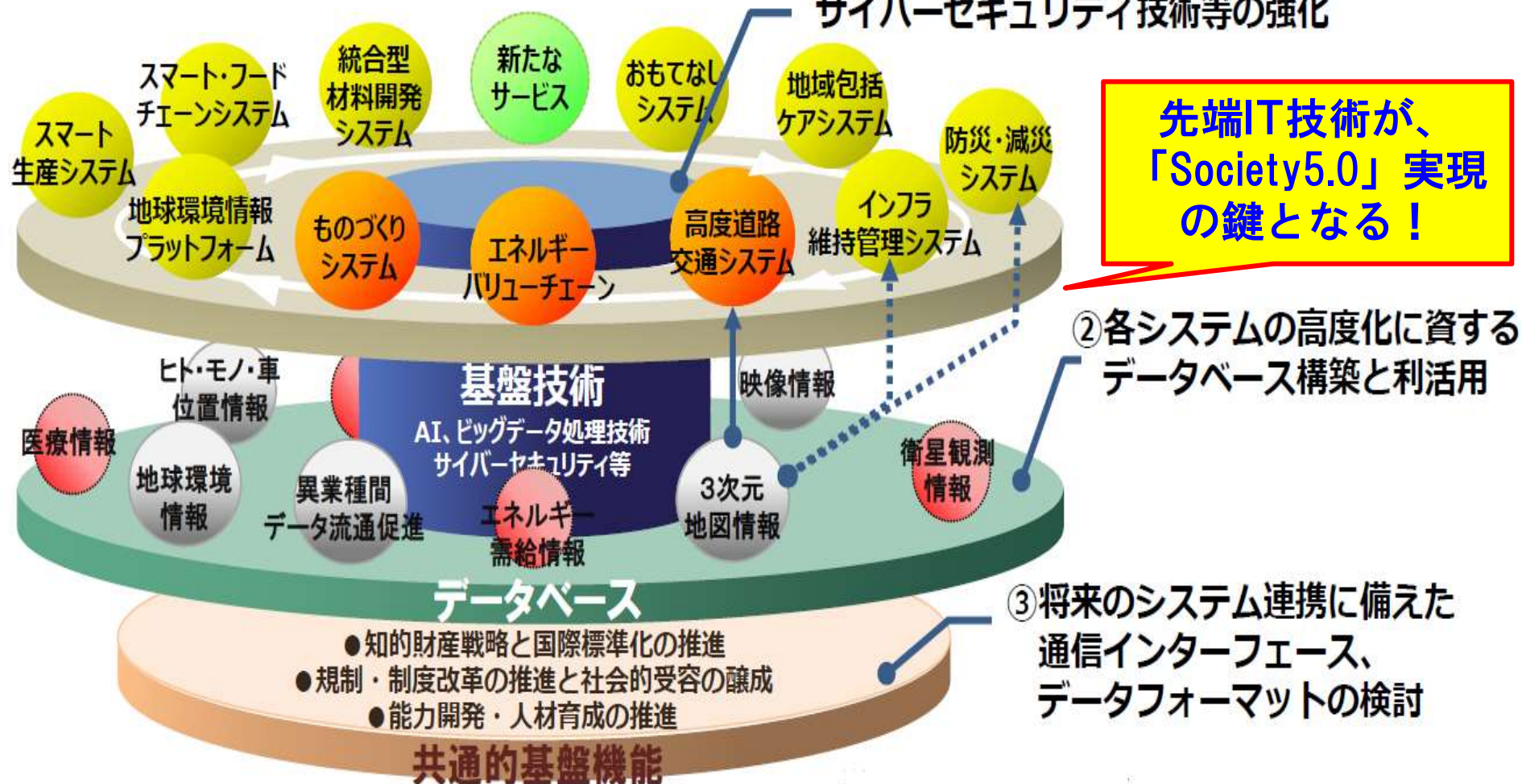
Society 5.0の世界



出典:【経団連】「Society 5.0実現による日本再興」

日本は、「Society5. 0」社会の実現を目指す

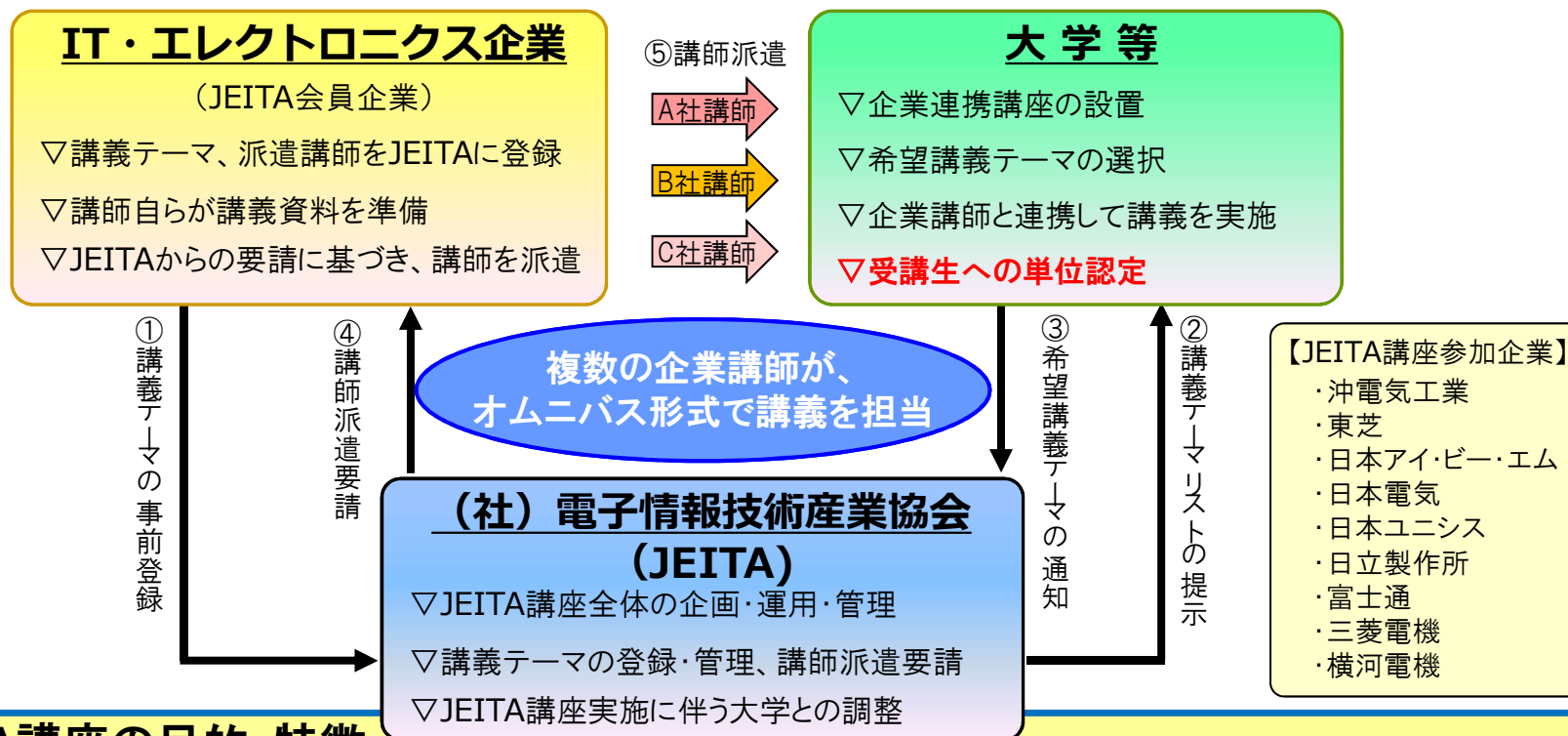
●「Society 5.0」プラットフォーム構築のイメージ



出典：内閣府総合科学技術・イノベーション会議「Society 5.0 実現に向けて」

IT産業界による「IT人材育成」のための取組 ～JEITA講座

『JEITA講座』とは、大学とIT産業界が協同で実施している
“IT人材育成”のためのプログラムです！



■ JEITA講座の目的・特徴

- 企業の第一線で活躍する技術者・研究者が、自らの業務を通して体験したことを中心に、**技術者としての姿勢、創造の厳しさ・喜び、企業が求める人材像**などを自らの言葉で学生の皆さんに伝えています
- 「**技術とモノづくりの面白さ**」も伝えることによって、皆さんにIT・エレクトロニクス産業で働くことの楽しさを理解してもらうとともに、「**大学で学ぶことの意義**」についても気付いてもらう

JEITA講座の実施大学(2002年度～2017年度)

【2017年度JEITA講座実施状況】

- 講座実施大学：9大学、12講座
- 講義実施数：124回
- 受講者数：556名

大学(★:2017年度実施大学)	大学講座名
★電気通信大学	情報システム学基礎1 「IT最前線 at ピクトラボ」
★横浜国立大学	先端電子情報工学
★東北大学	情報科学特別講義 「先端技術の基礎と実践」
★岐阜大学	先端情報技術論Ⅰ、先端情報技術論Ⅱ
★立命館大学	[前期]ICT産業論 [後期]企業連携講座、連携講座2
★中央大学	[前期]電子社会と情報セキュリティ [後期]情報ネットワーク構成特論
★東京電機大学	IT最前線
★津田塾大学	情報科学A
★北陸先端科学技術大学院大学	キャリア啓発セミナー「多様化する社会で求められるマルチキャリア」
東京大学	協力講座 「電子情報学特論1」(※隔年実施)
早稲田大学	JEITA寄附講座 「IT最前線」
東京工業大学	総合科目C 「IT最前線」
慶應義塾大学	21CoE/G-CoE教育プログラム(情報・電気・電子分野)
東京農工大学	科学特論6 「JEITA講座」

JEITA講座の講義一覧(2017年度)

■ JEITA講座HP(下記)に、各大学の2017年度JEITA講座講義一覧を掲載しています。是非ご確認下さい！

➤ 2017年度)JEITA講座「IT最前線」講義テーマ(上期)

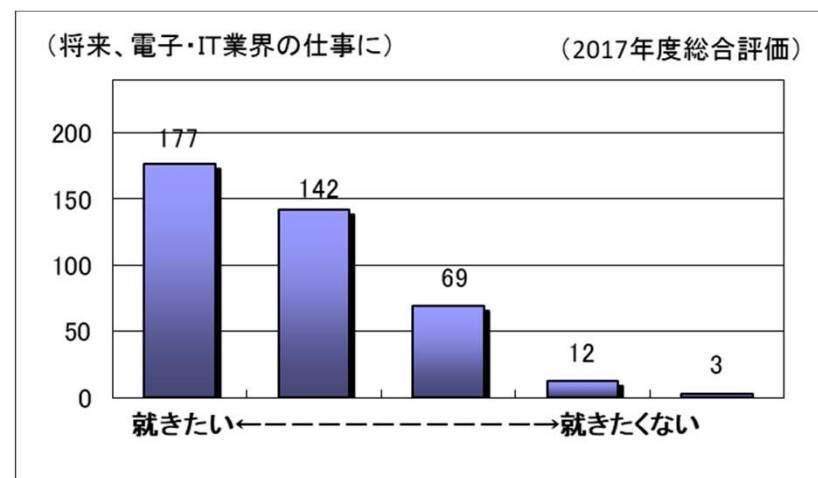
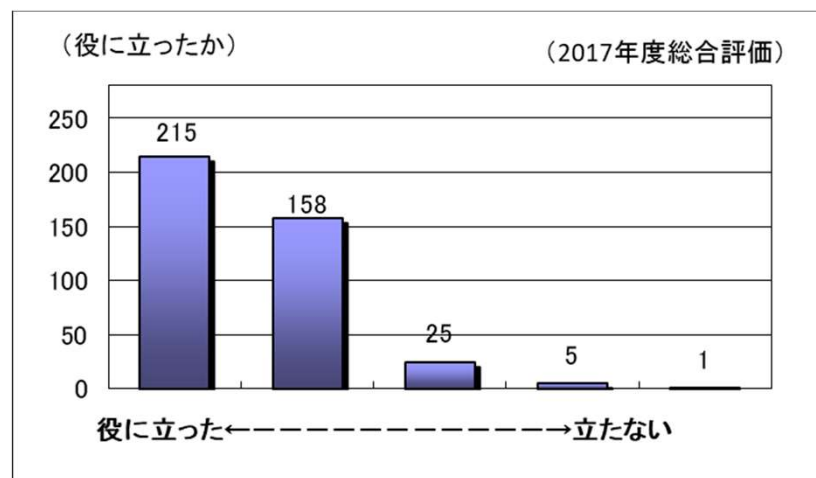
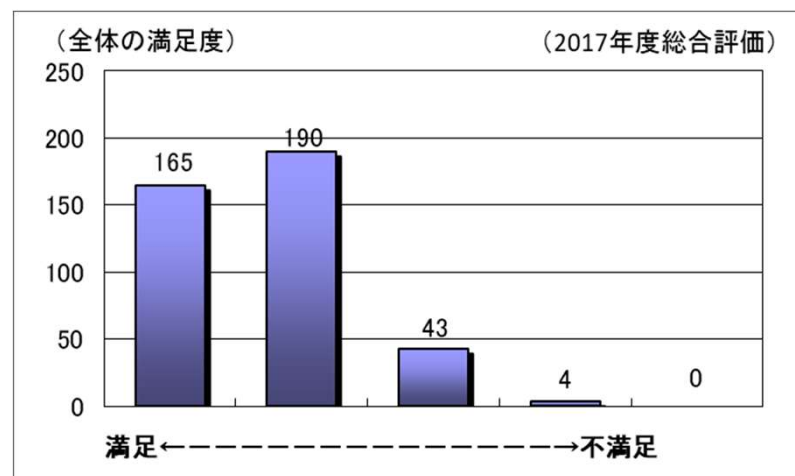
<https://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=961&ca=1>

➤ 2017年度)JEITA講座「IT最前線」講義テーマ(下期)

<https://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=1011&ca=1>

JEITA講座に対する受講生の評価(2017年度全受講生による総合評価)

各大学の全受講生を対象に、
JEITA講座の講義全体を通して実施したアンケート結果



JEITA講座に対する受講生・大学教官の声①

受講生の声

現場の技術者の話を聞くことで自分の将来について具体的に考えられるようになった

世の中のニーズや流れはどのようになっている、どうすればビジネスになるのかといった、今まであまり考えなかったことを考えるキッカケになった

今後の就職先といった将来について悩んでいたが、本講座を受講して、研究・技術職に興味を持った

先輩からの口コミでタメになると聞いて受講したが、実際にとてもおもしろく良かった。来年度の後輩にも勧めたいと思う。

IT業界に対する興味を深め、希望業界・業種について調査するきっかけを頂き、自分の人生設計を再考できた。学習した事や勇気を頂いた事を活かし、今後の研究や就活に尽力したい。

JEITA講座に対する受講生・大学教官②

大学教官の声

実際の話しを聞くことで、就職活動に対する意識が非常に高まる。

グループワークや意見をどんどん求められる講義では、学生からの積極的な参画が見られた。

現在の研究の内容が、社会・産業で、実際にどのように利用・展開されるのかを理解する良い機会。

企業での実体験に基づく仕事内容をご紹介いただける事は、通常の講義では得られない貴重な体験であり、学生にとって将来の就職を考える際に非常に参考になる。

毎回、講師とフリートークを行った。1時間以上に渡って熱心に議論に参加していた。技術動向はもちろん、技術者としての心構え、キャリアパスや業界情勢などが主なトピックであった。

最後に

「JEITA講座」は、
どなたでも傍聴する
ことが可能です！
是非、講義を聞いて、
各社の企業講師と
話をしてみてください。

お問い合わせは
○JEITA講座HP

JEITA講座

検 索




JEITA講座で キャリアデザインを 描こう!

「JEITA講座」は、大学とIT産業界が協同で実施する
“IT人材育成”のためのプログラムです。
IT企業の第一線で働く技術者・研究者が、あなたの大学に出向き、
“最先端のIT技術”や“IT産業で働く楽しさ”を生の声で語ります。

主な講演企業（五十音順）

- 沖電気工業
- 東芝
- 日本アイ・ビー・エム
- 日本電気
- 日本ユニシス
- 日立製作所
- 富士通
- 三菱電機
- 横河電機

JEITA とは、

一般社団法人 電子情報技術産業協会
(Japan Electronics and Information
Technology Industries Association)の
ことです。電子・情報機器の振興を図ること
により、我が国経済の発展と文化の興隆に寄与
することを目的とした業界団体です。

●お問い合わせ
一般社団法人 電子情報技術産業協会
インダストリ・システム部 JEITA講座運営WG
TEL: 03-5218-1057 e-mail: itt3@jeita.or.jp

JEITA 講座

検 索